

開会挨拶

ご来場の皆さま、そしてオンラインでご参加の皆さま、
本日は国際フォーラム「南モンゴル自由・独立運動の歴史と展望」にお集まりいただき、心より御礼申し上げます。

南モンゴルの人々は、この 100 年以上にわたり、自らの自由と独立、そして民族の尊厳を守るために不断の闘いを続けてきました。

20 世紀前半には、私たちの先人たちが日本とも深い連携を築き、民族の自決を目指して行動しました。その歴史を思うとき、いま東京でこのフォーラムを開催できることは、非常に大きな意義を持つものであります。

しかし現実には、1949 年の中華人民共和国成立以来、南モンゴルは「自治区」の名の下に、民族の自由を奪われ続けています。文化大革命期には数十万人のモンゴル人が犠牲となり、民族ジェノサイドが実行されました。そして現在も、モンゴル語教育の禁止、遊牧文化の否定、草原の環境破壊など、民族浄化政策は形を変えながら続いています。これは決して過去の出来事ではなく、現在進行形の深刻な人権侵害であります。

その中で、南モンゴルの抵抗運動は、チベットやウイグルに比べ、十分に知られてこなかったのが現実です。しかし 2021 年、日本で世界唯一の「南モンゴルを支援する議員連盟」が結成されました。この事実は、私たち南モンゴル人にとって、歴史的に極めて大きな希望であります。本日も列席の国会議員の皆さまをはじめ、日本の友人の皆さまが長年にわたり私たちの声なき声を支えてくださったことに、心から感謝を申し上げます。

そしてここで改めて、去る 10 月 4 日、自民党総裁に選出されました高市早苗先生に、心よりお祝いを申し上げます。高市総裁は、長年にわたり人権外交や法の支配の重要性を訴え続けてこられました。私たちは、先生が掲げる「人権 DPL（民主・人権・法の支配）外交」が、南モンゴルをはじめとするアジアの人々の自由と人権のために、より一層力強く展開されることを心より期待いたします。

このフォーラムが日本で開かれること自体が、南モンゴルの未来にとって希望の証であり、その希望は必ずや日本にとどまらず、国際社会へと広がっていくことでしょう。

さらに、私たちはチベット、ウイグル、香港、そして自由を求める中国の人々と同じ運命を共有しています。彼らと固く連帯し、中国共産党政権による抑圧に立ち向かうことは、私たち共通の使命であります。

本日の議論が、南モンゴルの自由と独立を実現するための国際的な行動につながり、未来への大きな一歩となることを願い、私の開会のご挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。